

ベートーヴェン生誕250周年を迎える2020年——

そのアニバーサリーイヤーに贈る、

「不滅のベートーヴェン5大ピアノ・ソナタ+エリーゼのために」

永遠なるリスペクトの想いを込めて…

2013年の歴史的な名演がよみがえる!!

ベートーヴェン“最後のソナタ 32番”の圧倒的な演奏で、  
音楽専門誌で〈神がかったレヴェル〉とまで評された及川浩治が、  
ベートーヴェンの初期から中期にかけての  
代表作「5大ソナタ」を演奏!

デビュー当時からベートーヴェンを最も得意とし、  
「5大ソナタ」を数え切れないほど演奏し録音も残してきた  
及川浩治のベートーヴェン演奏は、時にロマンティックに寄り添うように、  
時に激しい叫びのように、  
私たちの心に熱いメッセージと感動を与えてくれました。  
そして、実は「熱情」よりも後年に作曲された「エリーゼのために」が、  
愛らしい小品にとどまらずベートーヴェンの魂が宿った作品であることを、  
及川浩治の演奏が教えてくれたのです。

7年の歳月を経て、円熟の境地と呼ぶにふさわしい  
堂々たる風格を感じさせる及川浩治が、  
気持ちを新たに挑む“十八番”の名曲ソナタ。  
今回はどんな世界を見せてくれるのか、どうぞお楽しみに!

#### 及川浩治 (ピアノ)

1984年 ヴィオットー・ヴァルセミア国際音楽コンクールで十代にして第1位受賞。1990年 ショパン国際ピアノ・コンクール最優秀演奏賞 (Honourable mention)、マルサラ国際音楽コンクール 第1位受賞。1995年 サントリー大ホールにて本格的にリサイタル・デビュー、CDデビュー。同年 佐渡裕指揮ラムルー管弦楽団定期演奏会にてパリ・デビューも飾る。1999年「ショパンの旅」と題したコンサート・ツアーは全国各地で大評判となり、2008年～2011年には東京・大阪での同時プロジェクト「10大協奏曲シリーズ」に取り組みなど人気・実力共に日本を代表するピアニスト。ダイナミックな中に繊細さをも併せ持ち、内面にダイレクトに訴えかける及川の演奏は幅広い聴衆の共感を得ている。CDは、ショパン、ベートーヴェン、リスト、ラフマニノフなどの作品集が発売されており、いずれも高い評価を受けている。「ベートーヴェン：悲愴・熱情・ワルトシュタイン」、「ショパン：バラード」は、「レコード芸術」誌特選盤に選出された。【及川浩治公式サイト [koji-oikawa.com](http://koji-oikawa.com)】

#### ～ 及川浩治が語るベートーヴェンの魅力～

「たまらないロマンと美と情熱が、ベートーヴェンの音楽には詰まっています。」

「あの過酷な人生を生き抜いた彼の音楽は、苦しい時こそ私たちに救ってくれる。」

「音、そしてハーモニーのひとつひとつに込められた魂。

どんな苦しみにも打ち勝ち、勝利や歓喜を人に与えてくれる強い意志。

演奏者に求められるのも、迷わないこと、強い意志を持つこと。

そうすれば聴く人にも彼の音楽を通じてエネルギーを与えることができ、  
生きる勇気を持ってもらえるような気がします。常に勇気を与えてくれる作曲家です。」

「常に変革を求める時代だからこそ、ベートーヴェンが必要だと思います。」

及川浩治、入魂のベートーヴェン傑作ソナタ集!

ベートーヴェン

《悲愴》《熱情》《ワルトシュタイン》

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 八短調 作品13《悲愴》、第21番 八長調 作品53《ワルトシュタイン》、  
第23番 へ短調 作品57《熱情》

及川浩治(ピアノ)

【録音】2007年3月28、29、30日、名取市文化会館 AVCL-25157 定価：¥2,857(本体価格)+税

SACD/ハイブリッド ステレオ/5.0サラウンド



好評発売中

